

8年ぶり2度目のセンバツ出場を決めた鳥取城北ナイン。鳥取市国府町の鳥取城北高グラウンド



日本海新聞

発行所
新日本海新聞社
〒680-8608 鳥取市宮安2丁目137
電話(0857)21-2888(代表)
西部本社
〒683-8520 米子市南三柳3060
電話(0859)34-8811(代表)
中部本社
〒682-8505 倉吉市上井町1丁目156
電話(0858)26-8300(代表)
郵便振替 01470-7-8099
©新日本海新聞社 2020

号外

鳥取城北 春到来

日本海新聞購読お申し込みは

(受付時間 9:00~18:00
日曜・祝日・年末年始除く)

本社 0120-123-4141 西部 0120-133-1405
中部 0120-126-18330 但馬 0120-182-14541

8年ぶり2度目のセンバツへ。第92回選抜高校野球大会(3月19~31日・甲子園球場)の出場32校を決める選考委員会が24日、大阪市内で行われ、鳥取県から鳥取城北(鳥取市西品治、石浦外喜義校長)が選ばれた。出場決定の朗報が届くと、選手らは喜びを爆発させた。

日本海新聞アプリに新メニュー
日本海新聞 デジ缶登場

選抜高校野球
出場決定 8年ぶり
2度目

県勢の選出は昨年の米子東に続き2年連続。県勢が2年続けてセンバツに出場するのは1992年と93年の米子商(現・米子松蔭)、鳥取西以来27年ぶりとなる。

昨秋の県大会で優勝した鳥取城北は、センバツ出場を決める上で重要な資料となる秋季中国大会に進出した。準決勝で創志学園を相手に、持ち味の打力と機動力を発揮。13-6の七回コールドで圧勝してセンバツ出場を確実にした。決勝は倉敷商に7-9で惜敗したもの、一時は8点あった点差を六、七回の猛攻で2点差まで詰める地力を見せた。

組み合わせ抽選会は3月13日、大阪市内で行われる。

一生一度の戦い楽しもう



鳥取城北高・石浦外喜義校長

2011年2月初めて春の聖地の土を踏んで以来、8年ぶり2度目の出場が決まりました。ここまで支えていただいた野球関係者、保護者の皆さまに、この場を借りて厚く感謝申し上げます。鳥取県勢は2009年以降、センバツでの1勝が遠のいています。大舞台で勝利を引き寄せるプレーを

見せ、校歌を響かせたいと思います。

当校は「一生に一度しかない、三年間がある」を合言葉に生徒、保護者、教師ら全員が幸せになる教育を目指しています。ナインには今のメンバーで挑める一生に一度の甲子園を楽しみ、結果を残すために残り2カ月間、うそのない練習をやりきってほしいと願います。新チーム発足から掲げる日本一を本気で目指します。

祝・センバツ出場! がんばれ 鳥取城北高校! とりしんも応援しています

ふれあい 大好き
共創・共生 鳥取信用金庫

鳥取市栄町645番地 ☎(0857)23-2411 <http://www.tottori-shinkin.co.jp>

「いざ甲子園」80人一丸



鳥取城北高の横顔

1963年創立の私立校。「質実剛毅」の校訓を基盤に、知・徳・体の調和と統一のとれた教育活動を展開し、明朗闊達で進取の気性に富んだ人材の育成を目指す。普通科に研志、志学、スポーツ科学の3コースがある。新校舎(教室棟・アリーナ)に続き、食堂、全面人工芝の全天候型グラウンドを整備。今年10月には約400人収容の多目的ホールが完成予定だ。

鳥取城北高野球部の横顔

創部は1969年。2009年夏の県大会で初優勝を飾って以来、夏の選手権に5度、春の選抜大会に1度出場した。プロ野球広島などで活躍した川口和久、阪神の能見篤史、元西武の藤原良平ら好投手を輩出している。15年には念願の硬式野球部専用グラウンドが完成し、全国大会での優勝を目標に日々練習に励んでいる。

鳥取城北① 公式戦成績

【秋季県大会】

- 12-2 鳥取育英
- 6-5 鳥取商
- 18-11 倉吉東
- 12-5 境

【秋季中国大会】

- 3-2 南陽工
- 9-2 平田
- 13-6 創志学園
- 7-9 倉敷商

倉敷商との決勝では粘り強さを発揮した。五回終了時点で1-9と大量リードを許したが、六回に安部、構の連続適時打、七回に主砲吉田の本塁打が飛び出し2点差に追いつけた。

「全国という目標があることで選手目の色が変わった」と山本監督。練習の質向上から成長を感じ取り、春の本番を待つ。

つなぐ打線、粘り身上

投手陣は左腕阪上を軸に田淵、中川の継投で相手打線を抑えた。阪上は1回戦で三回から7イニングを投げ、無失点に抑えた。準々決勝を被安打5、2失点で完投した田淵は、続く準決勝の創志学園戦で四回2死満塁のピンチに登板。無失点で切り抜けたと七回までを1失点で抑え、コールド勝ちに貢献した。

倉敷商との決勝では粘り強さを発揮した。五回終了時点で1-9と大量リードを許したが、六回に安部、構の連続適時打、七回に主砲吉田の本塁打が飛び出し2点差に追いつけた。

「全国という目標があることで選手目の色が変わった」と山本監督。練習の質向上から成長を感じ取り、春の本番を待つ。

センバツへの軌跡

つなぐ打線をテーマに秋の県大会、中国大会を勝ち抜いた。両大会決勝を除く6試合のうち4試合をコールド勝ちし、中国大会のチーム打率は3割4分3厘。打力と機動力が光った。

中国大会では河西がチームを勢いづけた。1回戦で逆転の2点適時二塁打を放ち、3年ぶりに初戦を突破。準決勝の創志学園戦は初回に2点本塁打で先制した。下位打線の石原は50打5秒8の俊足で好機をつくり、7打点のリードオフマン畑中につないで、構はチームトップの打率5割をマーク。藤元は盗塁で相手守備を乱した。

投手陣は左腕阪上を軸に田淵、中川の継投で相手打線を抑えた。阪上は1回戦で三回から7イニングを投げ、無失点に抑えた。準々決勝を被安打5、2失点で完投した田淵は、続く準決勝の創志学園戦で四回2死満塁のピンチに登板。無失点で切り抜けたと七回までを1失点で抑え、コールド勝ちに貢献した。